



2024年4月25日

教育・報道関係各位

東京女学館中学校・高等学校の新体制について 2026年度より国際学級2学級化

東京女学館中学校・高等学校の国際学級は、今年で20周年を迎えます。この度、国際社会で活躍する女性を数多く育成・輩出してきた20年の蓄積と実績を踏まえて、これまで各学年1クラスとしてきた国際学級を、2026年度より2クラスに拡充いたします。



C. Brunelli 国際副教頭

国際学級を2学級に拡充し、教育内容も強化

本校の国際学級は、20年にわたって国際社会で活躍する女性を育成・輩出してきました。その蓄積と実績を踏まえ、これからの世界で必要とされるグローバル人材のあり方を見据えて、国際学級のさらなる発展・拡充を図り、2026年4月より国際学級を各学年1クラスから2クラスに拡充します。これによって、2026年度の中学1年より、各学年のクラス編成を【国際学級2クラス＋一般学級4クラス】とし、年次進行で高校3年までの全学年をこの体制に変更していきます。

クラス数を拡充するだけでなく、国際学級における学びの内容についても更なる充実を図ります。これまでは中高6年間を通して文系のカリキュラムでしたが、国際学級においてもSTEAM教育を重視し、今年度の高校1年生より理系のカリキュラムを選択することが可能となります。また、協定を結んだ大学との高大連携をさらに進めて、大学進学後の学業や海外留学のための基礎を築くとともに、海外大学への進学も強力に支援する体制を整えます。そのための具体策として、ケンブリッジ国際認定校としての登録を申請中で、認定されれば世界中の大学への進学の道が大幅に広がります。

そして、これからの国際学級の目標は、「日本文化を英語で世界に発信していくインクルーシブリーダーシップを備えた女性の育成」とします。本校の国際学級での学びの特徴の一つとして、日本文化について体験し理解を深める機会を数多く設けていることがあげられますが、多様性が重視されるこれからの国際社会において、世界に貢献できる真のグローバル人材としては、自国の文化を知り、母語の力を十分に発揮できることが不可欠です。自らの文化的なバックグラウンドを確立し、それを世界に発信できる英語力を備えた人材の育成を目指します。



グローバル・シティズンシップ教育とこれからの国際学級

今年で創立 136 周年を迎える本校は、「高い品性を備え、人と社会に貢献する女性の育成」を教育目標に掲げ、創立時より国際社会で対等に交際できる女性の育成を目指してきました。その建学の精神を受け継ぎ、グローバル化が進む 21 世紀の世界を見据えて 2004 年に誕生したのが本校の国際学級です。周囲に各国の大使館が点在し、国際色あふれる広尾という町の利点も生かして、英語教育と国際理解に注力してきました。

本校の国際学級では、世界各国からの海外帰国生と日本で生まれ育った一般生が共に学ぶ環境の中で、それぞれの違いに価値を置き、互いを尊重し、助け合う、多文化交流が行われています。北米のカリキュラムをモデルにした Language Arts の授業を 6 年間積み重ねることで、世界で通用する英語の実力を身につけています。それと同時に、日本文化についても体験し、理解を深める機会を多く設けています。自らのバックグラウンドを確立し、自らの文化に誇りを持つことは、他の文化の価値を尊重し、多様性を受け容れるための前提となるからです。

本校はタイ、マレーシア、アメリカ、韓国、オーストラリアの提携校から定期的に訪問団や短期留学生を受け入れており、主に国際学級の生徒がそのアテンド役を担っています。高校 1 年次には全員がポストン・リーダーシップ研修に参加します。また、模擬国連の取り組みでは、多層的な歴史背景や国際情勢を学び、グローバル社会に必要とされる柔軟な思考力や多角的な視野を磨くとともに、これまで培ってきた英語力やチームワークを総動員することが求められます。こうした様々な取り組みを通して、インクルーシブ・リーダーシップを育ててきたことも大きな特徴です。

本校の教育では重点課題の一つとして、地球規模の課題について考え、解決に向けて行動できる人材を育てるグローバルシティズンシップ教育を位置づけています。世界の分断が進む今、多角的な学びを通して“地球市民”の土台を構築し、社会を変える人を育成したいと考えています。真のグローバル人材の育成を目指して、東京女学館中学校・高等学校の国際学級は新たなステージへと進みます。

東京女学館中学校・高等学校について

よりよい社会の構築には、どのような時代でも通用する普遍的な力と、時世に沿った多面的な視野が鍵となります。そのためには、社会課題の解決に向けて主体的に働きかける、自立した“個”を確立させていくことが必要不可欠です。東京女学館では、「高い品性を備え、人と社会に貢献する女性の育成」を教育目標に掲げ、一人ひとりが自己を磨き、高め、予測不能な時代を生き抜く、しなやかな強さを育みます。



【沿革】 1888 年、伊藤博文・渋沢栄一らが設立した女子教育奨励会を母体として永田町に開校。創立時より国際社会で対等に交際できる女性の育成を掲げ、その建学の精神を今に受け継ぐ。

【住所】 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 3-7-16

【電話】 03-3400-0867

【FAX】 03-3407-5995

【公式 Web サイト】 <https://tjk.jp/mh/>



《お問い合わせ先》

東京女学館中学校・高等学校 広報担当 坂田・井上
TEL：03-3400-0867（代表） Email：tjkkoho@tjk.jp